



児玉化学工業グループ 新中期計画2028

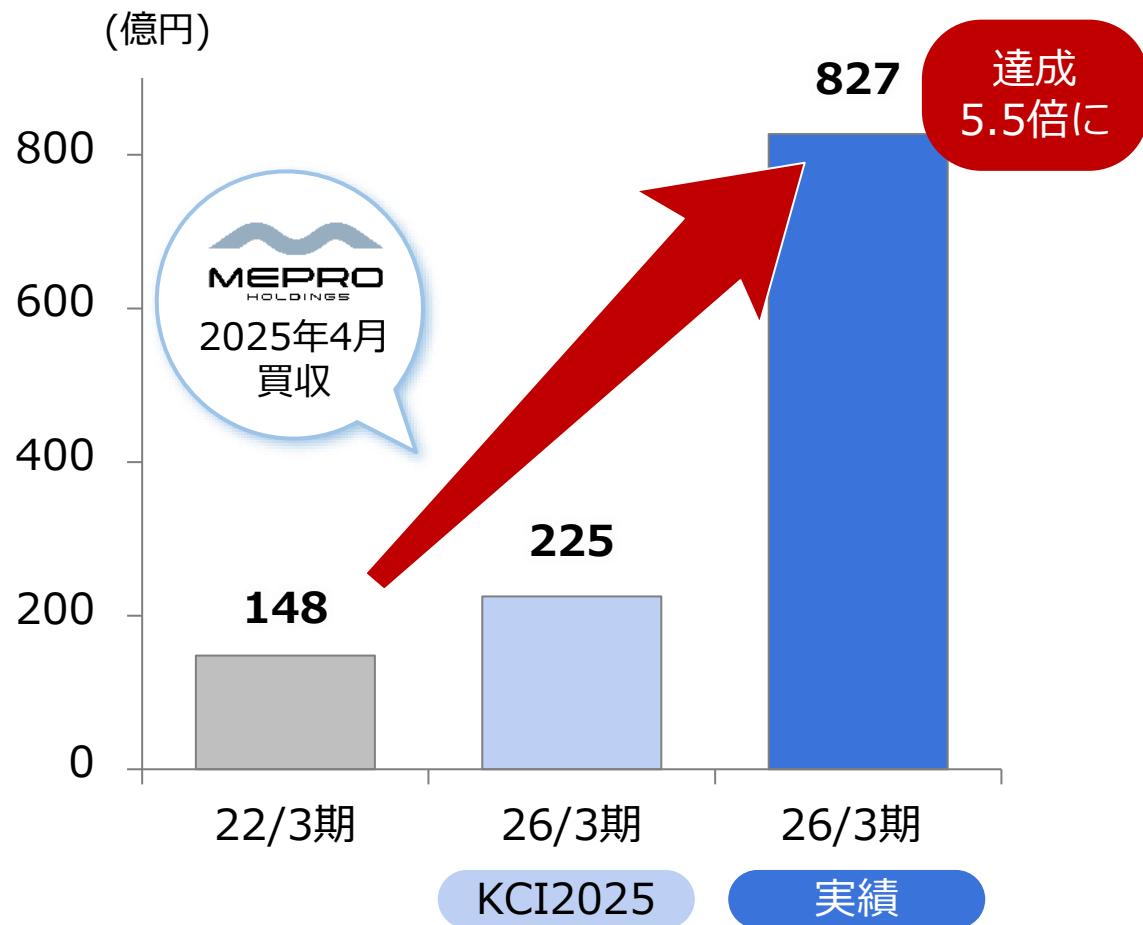
2026年5月14日

1. 前中期経営計画の振り返り
2. KCIグループ戦略
3. 事業別計画
4. キャッシュアロケーションの考え方と財務・配当方針
5. ESGへの取組

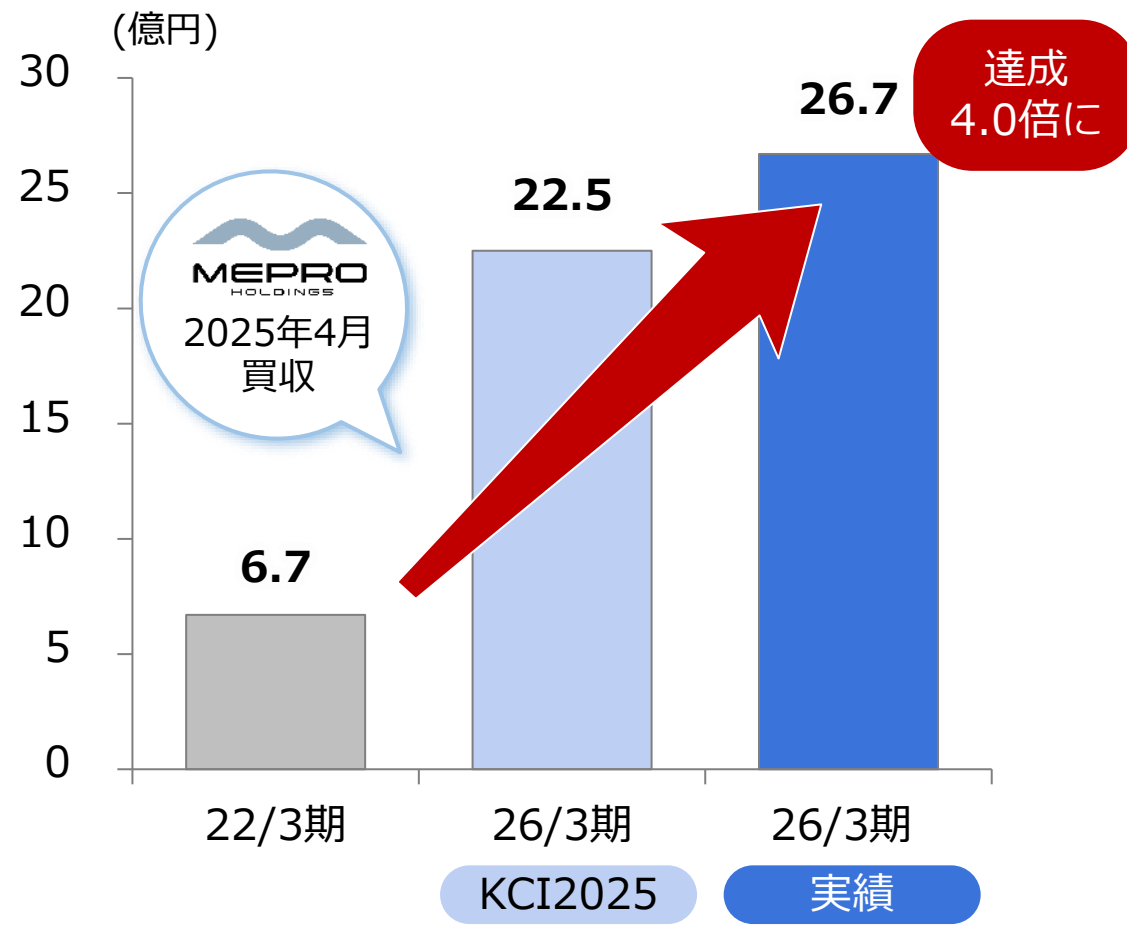
前中期経営計画（KCI2025）の振り返り

MeproHDの買収を契機として事業規模は大きく拡大し、前中期経営計画（KCI2025）の想定を大きく上回る成長を実現。2022年3月期対比で、売上高は5.5倍、営業利益は4.0倍となり、成長基盤の構築を完了。

売上



営業利益



1. 前中期経営計画の振り返り
2. KCIグループ戦略
3. 事業別計画
4. キャッシュアロケーションの考え方と財務・配当方針
5. ESGへの取組

新中期経営計画で目指す将来像（グループパーパス・提供価値）

当グループは、「異素材加工技術の統合を軸に、製造業発展の一翼を担う」をパーパスとし、多様な加工技術を有することで、多様な素材や部材で構成される機能モジュールをワンストップ提供する企業への進化を志向。

グループパーパス

異素材加工技術の統合を軸に、製造業発展の一翼を担う

提供価値

異素材加工技術を横断的に保有する加工プレイヤーとして、
顧客ニーズに応じた機能モジュールのワンストップ提供を実現



25年4月1日付で、アルミ鋳造・鉄鍛造・粉末冶金技術を有するMeproHDを子会社化。

本買収により異素材加工技術を金属領域に拡充し、複合的な素材技術を有するグループへの進化を実現。

今後においても、自動車などで内部設計のモジュール化が進んでいく流れを見越し、必要に応じM&A等も活用しながら、複合素材・加工技術の更なる強化を目指す。

将来像に向けた新生児玉化学工業グループの中期ビジョン

MeproHDのグループ化により、樹脂および金属のコア技術を統合。
両技術の融合を通じて、顧客の高度化ニーズに対応するソリューション提供力を強化する。

樹脂事業と金属事業の融合による
製品ポートフォリオの拡大



児玉化学工業
樹脂製品

Mepro
金属製品

新生児玉化学工業グループ

樹脂と金属、
2つのコア技術の融合により
唯一無二の
ソリューションパートナーに

グループ事業基盤の有効活用による
中長期的なシナジー効果の模索



モビリティ
領域

モビリティ以外の
領域

成長を支える当社の成形技術基盤

樹脂成形

軽量化や複雑な形状が
求められる部品に適する



鋳鍛造

一定の強度が求められる
部品に適する



粉末冶金

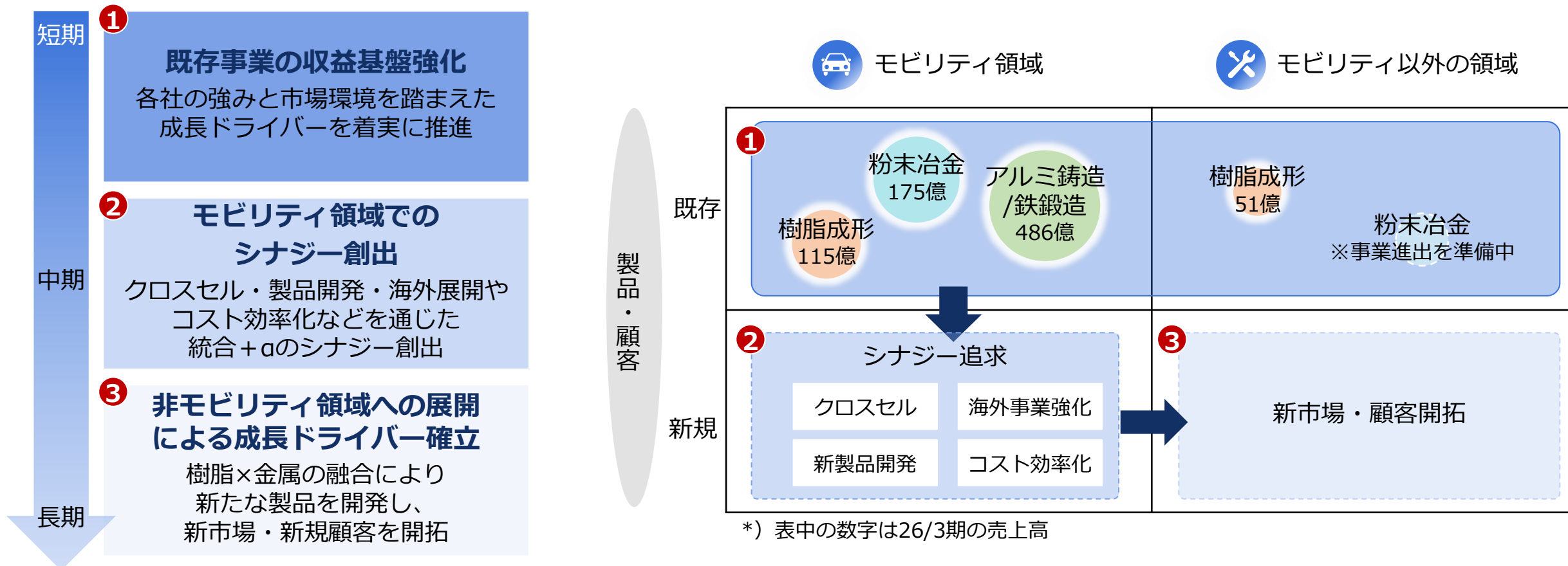
複雑形状部品に適しており、
原料の混合による機能性を付与



事業成長の方向性

足許は既存事業の強化を通じて着実な成長を図りつつ、中期的にはモビリティ領域でシナジーを追求して成長を志向し、長期的にはモビリティ領域で培った競争力を多様な産業に展開し、成長ドライバーの創出に挑む方針。

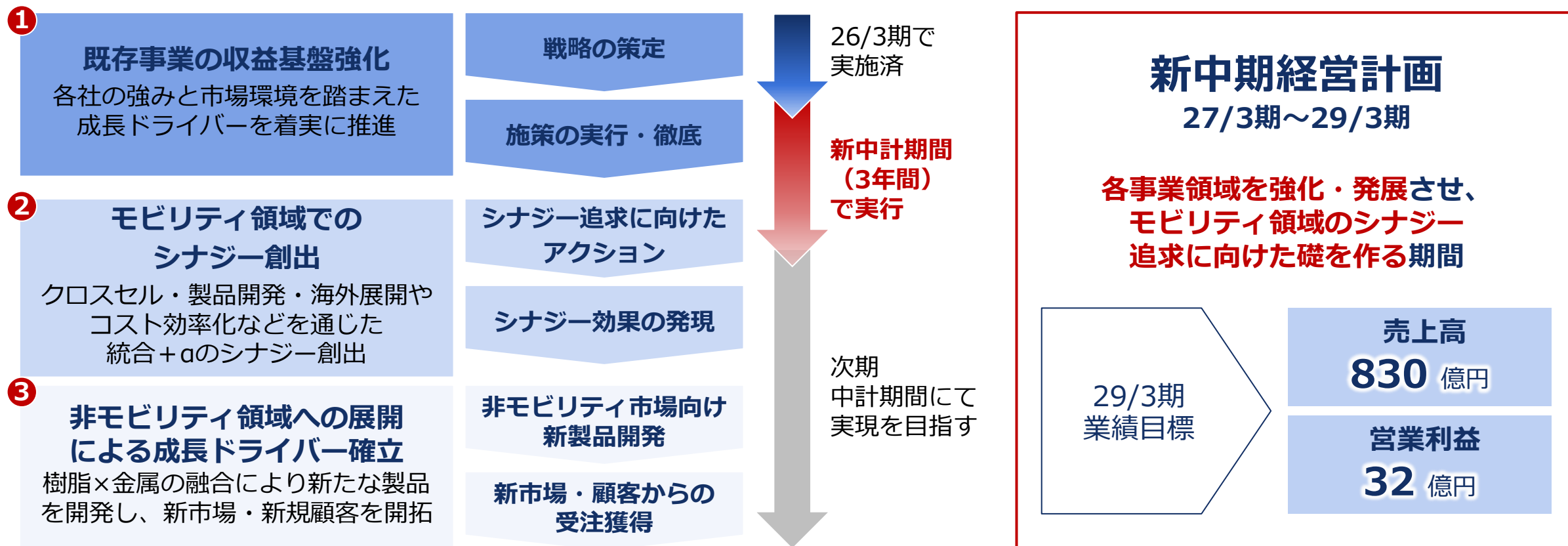
グループとしての事業成長の方向性



新中期経営計画の位置づけ

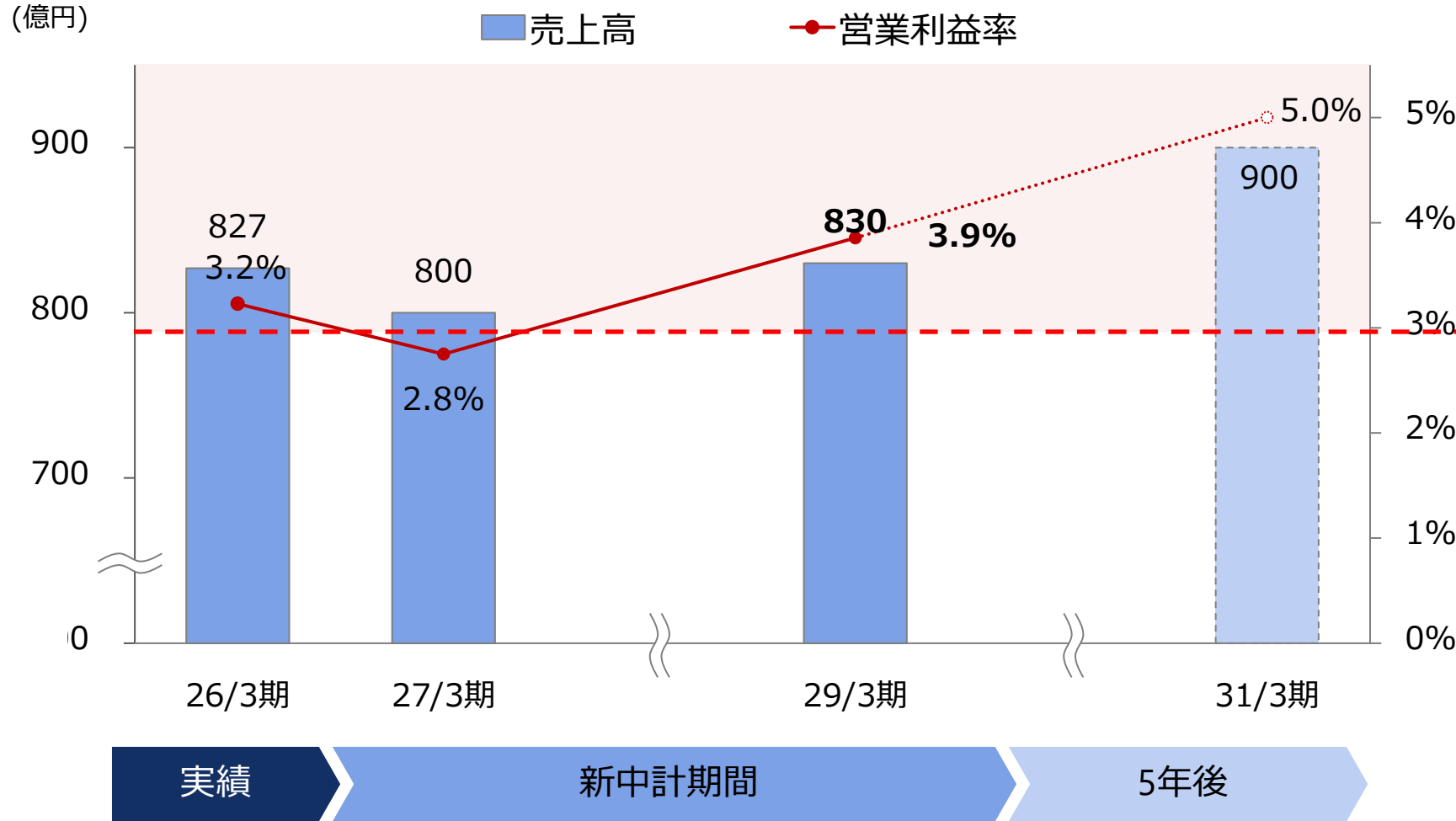
本計画期間を、既存事業の収益基盤強化を通じたグループシナジー創出に向けた基盤を構築する期間と位置付ける。

新中期経営計画の位置づけ



業績目標

本計画の目標は収益基盤の強化。5年後のターゲット（売上高900億円）を視野に規模の拡大を図りつつも、中計最終年度である29/3期（3年目）には、売上830億円、営業利益32億円、営業利益率3.9%を目指す。



**営業利益率が
恒常的に3%を上回る
体制構築を3年間で図る**

5年後の営業利益率5%
に向けた橋頭堡を築く

(参考)
2024年自動車サプライチェーン
製造業の営業利益率の平均水準

| | |
|---------|------|
| 全体平均 | 1.4% |
| Tier1平均 | 2.8% |
| Tier2平均 | 1.3% |
| Tier3平均 | 0.6% |

出所) 帝国データバンクによる調査

数値目標

収益基盤の強化と併せて、財務体質の改善と株主還元の両立を志向する。
株主還元においては安定配当を第一とし、今回の復配水準（10円/株）を維持できるように収益力改善に努める。

| | 実績 | 新中計期間目標 | |
|--------|--------------------------|---------|--------|
| | 26/3期 | 27/3期 | 29/3期 |
| 売上高 | 827億円 | 800億円 | 830億円 |
| 営業利益 | 26億円 | 22億円 | 32億円 |
| EBITDA | 69億円 | 65億円 | 81億円 |
| 自己資本比率 | 42.3% | 43%以上 | 45%以上 |
| EPS | 1,508円/株 ^(*1) | 90円/株 | 109円/株 |
| 総還元性向 | 復配 | 10%以上 | 10%以上 |

*1) 26/3期は、買収に伴う負ののれん益225億円が一過性で計上されており、控除して試算したEPS（参考値）は60円/株となる。

1 新中計の主眼である「既存事業の収益基盤強化」に向けた基本戦略

新中計の主眼である「既存事業の収益基盤強化」に向けて、各セグメントを取り巻くそれぞれの外部環境を踏まえ、各事業の強みを活かした戦略に基づき事業を推進。

| | | 樹脂成形セグメント (児玉化学工業) | 鋳鍛造セグメント (柳河精機) | 粉末冶金セグメント (ダイヤモンド) |
|-------------|------|---|--|---|
| 外部環境認識 | | ものづくり基盤の再強化期 <ul style="list-style-type: none"> 自動車内外装・リビングスペース 国内市場は微減も、スーパーエン プラ等高機能素材ニーズは上昇 | xEV化への対応・移行期 <ul style="list-style-type: none"> ICE向け部品のEOP影響を受ける 一方、eアクスルに代表されるxEV 車向けアルミ部品の需要が拡大 | 構造改革とインド市場の開拓期 <ul style="list-style-type: none"> 国内焼結市場は縮小トレンドも、 インドは成長余地大 データセンター増設により電源の 高効率化・小型化需要が拡大 |
| | 基本戦略 | <ul style="list-style-type: none"> 埼玉工場への生産集約で稼働率を 改善し、既存製品の競争力を強化 西湘・袋井工場を研究開発・省人 化の実験拠点に転換 | <ul style="list-style-type: none"> 国内拠点の収益構造改革を継続し つつ、ICE部品の残存ニーズを確 実に刈り取り 受注済みxEV案件の着実な立ち上 げ・量産化と更なる受注の獲得 | <ul style="list-style-type: none"> 国内事業は残存者利益を確保し、 収益力の強化を図る インド新工場の量産立ち上げと電 源製品の営業活動に注力 |
| 29/3期 目標 | 売上 | 175億円 | 465億円 | 190億円 |
| | 営業利益 | 7億円 | 18億円 | 7億円 |

② ③ 中計期間後のグループとしての事業成長方向性

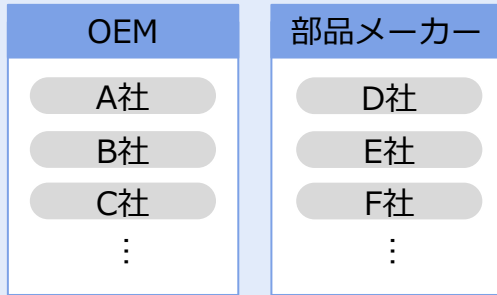
中計期間後は、モビリティ領域においてクロスセルや新製品開発、海外事業の強化やコスト効率化などのシナジーを模索。更に、モビリティ以外の領域においても樹脂と金属の融合により新顧客・市場への展開機会を探る。

2

モビリティ領域でのシナジー追求

クロスセル

顧客基盤の拡大



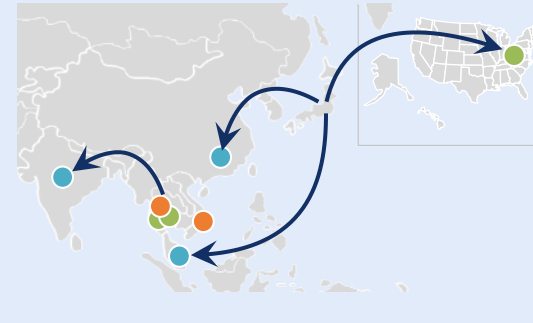
新製品提案・開発

グループ間技術の掛け合わせ例



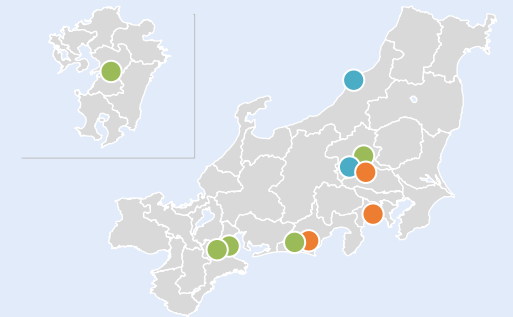
海外事業強化

海外拠点の有効活用



コスト効率化

サプライチェーンの最適化



3

モビリティ以外の領域での新市場・顧客開拓



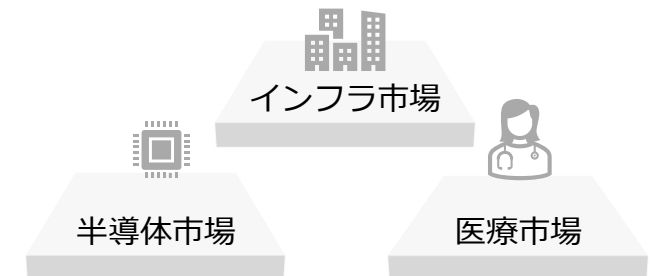
樹脂

×



金属

- 既存事業領域での金属部品需要の取り込み
- 樹脂と金属の一体成形による高付加価値化を追求
- 将来的には全く新しい成長市場への進出も視野



自動車産業において、様々な素材や部材で構成される機能部品をワンストップで提供する企業へのニーズが高まっており、この機会を捉え、幅広い分野で提案機会を探り、マルチマテリアル企業への進化を志向する。

自動車産業で高まるニーズ



軽量化・機能向上

複数素材を「適材適所」で組み合わせ、燃費規制・性能要件を両立



環境負荷低減

部品点数の削減・リサイクル性の追求により、サステナブル製品を追求



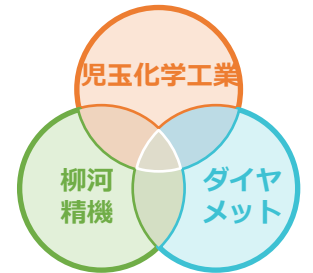
開発の効率化・短期化

軽量化・機能向上、環境負荷低減を実現するために複雑化する開発期間の短縮

技術の組み合わせによる商機の創出

グループ各社の技術をワンストップで提供・かけ合わせ（＝マルチマテリアル企業化）、商機を創出

展示会などで、以下例などを提案し顧客ニーズを確認していく



組合せ例1

含油軸受

樹脂インサート技術

組合せ例2

軟磁性材コア

樹脂インサート技術

組合せ例3

ダイキャストケース

軟磁性トランス

樹脂カバー

1. 前中期経営計画の振り返り
2. KCIグループ戦略
3. 事業別計画
4. キャッシュアロケーションの考え方と財務・配当方針
5. ESGへの取組

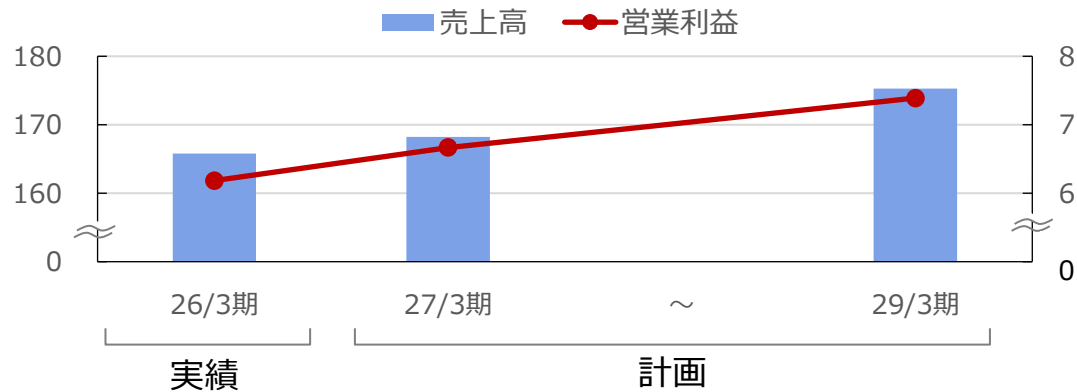
樹脂成形セグメント（児玉化学工業）

埼玉工場への生産集約で稼働率と競争力を高め、確保した原資をもとに、西湘工場・袋井工場での省人化・自動化検証や次世代製品の開発投資に充当し、3工場の位置づけに明確な違いを設ける。

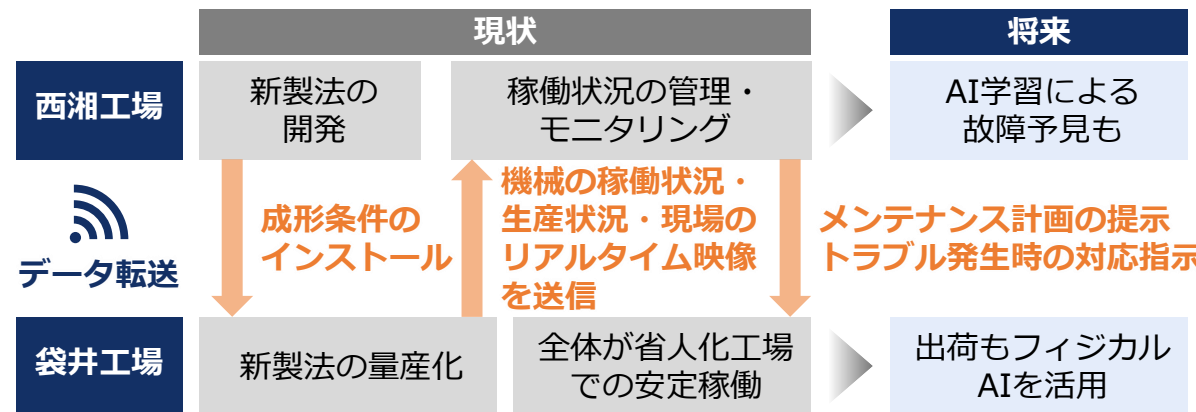
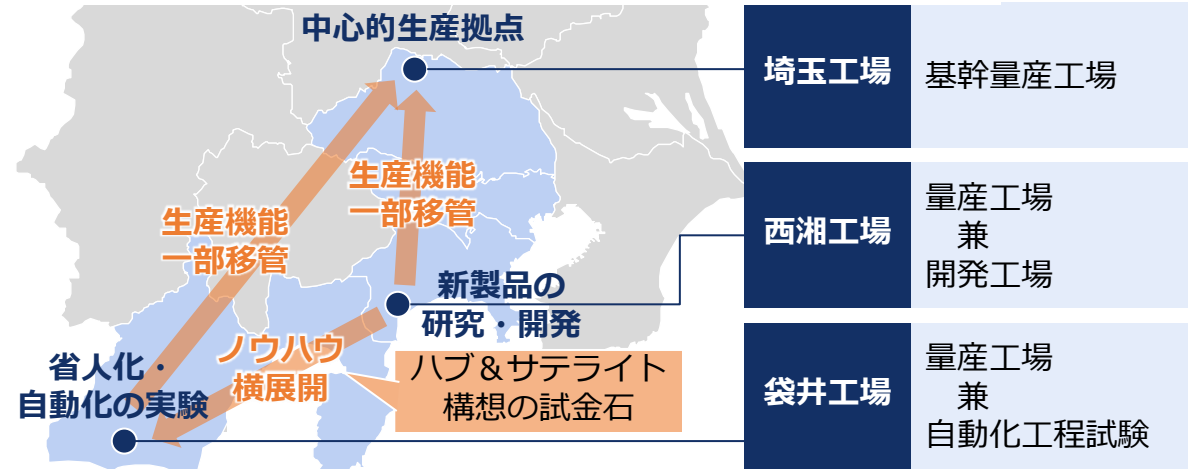
中計基本戦略・施策

| | |
|-----------------|--|
| 生産移管による稼働益の確保 | <ul style="list-style-type: none"> 埼玉工場への生産移管・集約により稼働率を改善し、既存製品の競争力を強化 |
| 西湘工場における研究開発力強化 | <ul style="list-style-type: none"> 西湘工場における研究開発機能の強化 研究開発結果を袋井工場へ展開し、省人化設備の実験・検証 |
| 海外事業での量産能力の拡充 | <ul style="list-style-type: none"> タイ法人を中心とした海外法人において、量産能力を拡充し事業を拡大 |

業績目標（金額単位：億円）



施策詳細：再編後の国内拠点の姿



足許で受注を獲得できつつあるxEV製品の更なる拡販により成長ドライバーを確立する。
 コスト構造改革を同時推進することで、営業利益率を3.9%まで引き上げ。

中計基本戦略・施策

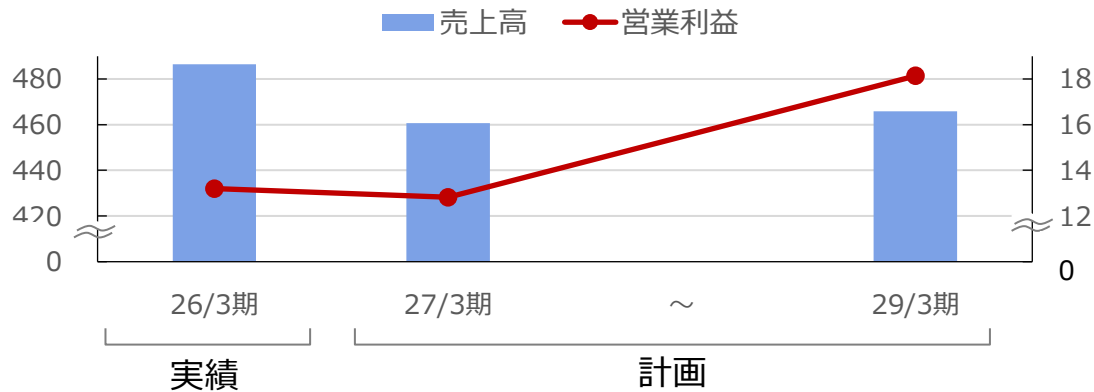
収益構造改革の推進

- 工程の内製化や生産性改善など、改善施策の着実な積み上げを実施
- 国内赤字拠点を中心とした収益構造改革を実現

xEV製品の拡販

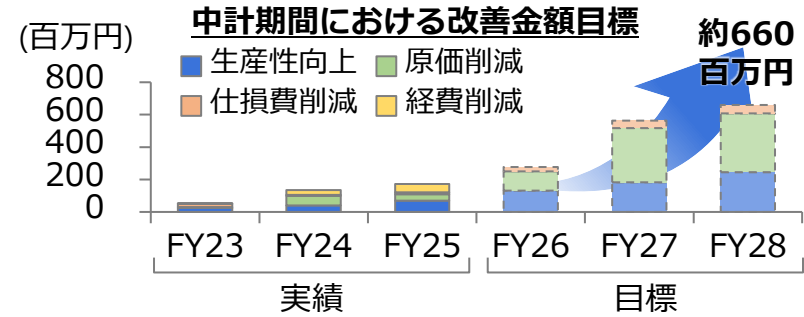
- 受注済量産案件の着実な立ち上げ
- 更なる拡販・案件獲得に向けた営業活動の強化

業績目標（金額単位：億円）



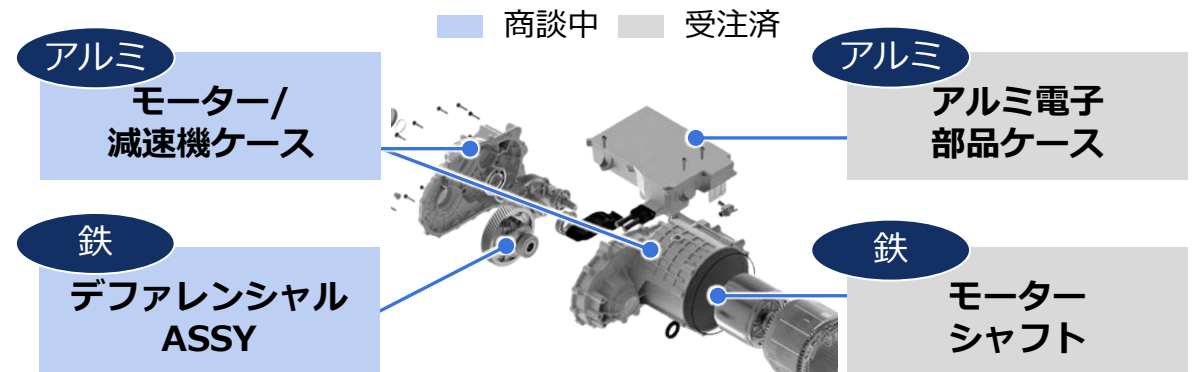
施策詳細

収益構造改革目標



- 主な実施予定施策
- ① アルミ溶湯内製化
 - ② 鋳造工程の収益改善
 - ③ キャストホイール塗装の内製化

拡販中のxEV製品



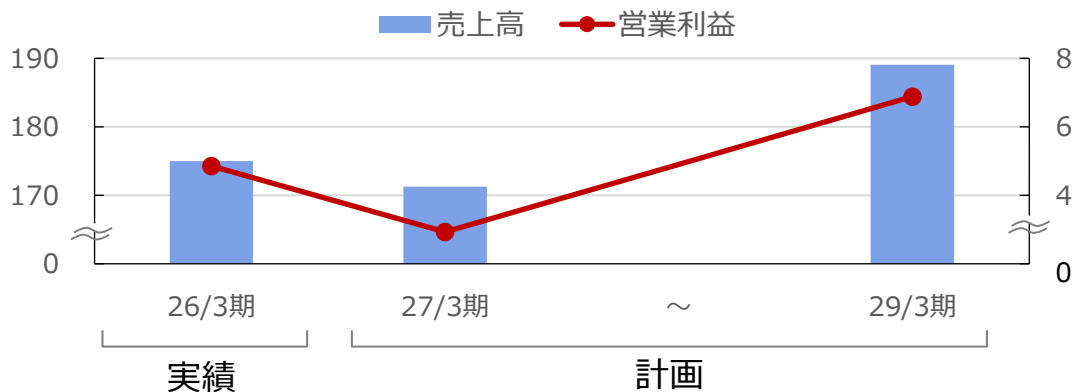
粉末冶金セグメント（ダイヤモンド）

足許は既存事業の収益最大化を推進しつつ、新工場を設立したインドでの量産立ち上げと、電源新製品の受注獲得を目指す。電源事業は27/3期を勝負の年と位置付け、展示会出展等の営業活動を加速し、受注獲得に繋げる。

中計基本戦略・施策

| | |
|------------|---|
| 既存事業の収益最大化 | <ul style="list-style-type: none"> 既存部品の受注確保・他社からの転注獲得強化 北米向け輸出機会の獲得 コスト効率化施策の実行 |
| 海外事業の強化 | <ul style="list-style-type: none"> インド：現地日系に加えローカル等への拡販を企図 中国：現地メーカーへの営業活動強化 |
| 電源製品の受注獲得 | <ul style="list-style-type: none"> 車載関連の他、データセンター向け電源等の成長市場取込み 展示会等への積極出展を通じて受注獲得を目指す |

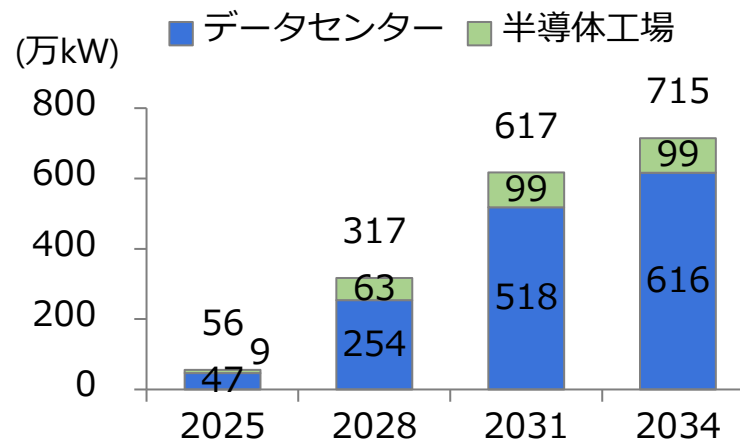
業績目標（金額単位：億円）



施策詳細：電源製品

- データセンター・半導体向け電力需要の拡大を追い風に、スイッチング電源の高効率化・小型化ニーズが顕在化
- 当社は独自の圧粉コアを用いた電源用トランスを開発。27/3期を重要な判断年度と位置付け、独自小型高効率回路と合わせて、展示会等への積極出展を通じて受注獲得を目指す

データセンター・半導体工場の新増設に伴う
個別計上最大需要電力



当社開発品
トランス・コア例



国内外の展示会に
製品出展中

1. 前中期経営計画の振り返り
2. KCIグループ戦略
3. 事業別計画
4. キャッシュアロケーションの考え方と財務・配当方針
5. ESGへの取組

再成長に向け投資を加速させる。減価償却費とほぼ同等の維持更新投資（累計139億円）に加え、当期利益と手許資金・資産を活用して戦略投資（累計57億円）を行う。株主還元は3年間の安定配当（10円/株）を計画する。

計画期間中のキャッシュアロケーション（3年累計：200億円）(*1)

| 資金源（3カ年累計） | 使途（3カ年累計） | |
|-------------------|------------------|------------|
| 減価償却費 135億円 | 維持更新投資 139億円 | 投資の考え方 |
| 手許資金・資産活用 25億円 | 戦略投資 57億円(*2) | 株主還元・配当政策 |
| 当期利益 40億円 | 株主還元 5億円 | 有利子負債 |
| | | 有利子負債返済1億円 |

- 減価償却費相当の維持更新投資を行い、生産能力と競争力の維持を図る。
- 再成長に向け、3年間の累計で57億円の戦略投資を行う。原資は、株主還元後の当期利益と、手許資金（運転資金の改善含む）や資産の有効活用（遊休地の売却等）にて賄う。

- 安定配当の観点から、復配した26/3期末の配当水準（10円/株）を堅守することを基本とし、計画を上振れる場合は自己株買い等も視野に。
- 総還元性向は10%以上の維持を目線とする。

- 約定弁済と新規調達との差引で1億円減少する

(*1) 端数処理の関係で、各集計の和が一致しない場合があります。

(*2) 投資時期や額は現時点のもの（お取引先様の計画変更等により変わる場合があります）。

1. 前中期経営計画の振り返り
2. KCIグループ戦略
3. 事業別計画
4. キャッシュアロケーションの考え方と財務・配当方針
5. ESGへの取組

環境・社会・ガバナンスの重点課題に対し、
現場改善と制度整備を一体で推進して持続的成長と企業価値向上を実現する。



環境 Environment

環境保全への取組み

- 地球資源の有効活用 (リサイクル材使用)
- GHG排出量削減 (工場における節電施策・再生可能エネルギーの活用等)
- 環境対応製品の開発推進 (バイオマスプラスチック等)
- 不良率・歩留まり改善による資源利用効率の向上・廃棄物の削減



社会 Society

社会責任への取組み

- 安心・安全な労働環境の整備 (労働災害0件、有給取得推進等)
- 差別防止とダイバーシティ推進による人材の確保、育成、定着 (女性管理職比率の向上等)
- 従業員等への健康投資の強化
- 従業員の能力開発・人材採用強化



ガバナンス Governance

企業統治への取組み

- リスクマネジメント・BCPの強化
- コンプライアンス経営の推進 (研修実施・内部通報制度整備等)
- 健全且つ有効なコーポレートガバナンス基盤の構築・会議体の適切な運営
- 情報セキュリティ高度化 (顧客データ・機密情報漏洩防止等)





児玉化学工業株式会社

〒101-0042

東京都千代田区神田東松下町14番地 東信神田THビル5階

Tel: 050-3645-0121

URL: <https://www.kodama-chemical.co.jp/>

(ご注意)

本資料は当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的として作成されたものではありません。本資料に記載された予測、予想、見込み、その他の将来情報は、現時点で当社が把握可能な情報および一定の前提または仮定に基づくものであり、今後、経済情勢をはじめ、当社の業績に影響を与える様々な既知または未知のリスクによって、ここに述べられている見通しと実際の結果が、大きく異なる可能性があります。